

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	70%	30%	土曜日や祝日など、放デイと児発のお子さんが共に過ごす日などスペースの確保が難しい時は、バギーを別の場所へ移動したり、お散歩や他の部屋を利用するなど工夫している。	2号目の事業所を開設し、快適なスペースを確保できるよう努めます。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	20%	職員の休みがかぶり配置数が難しい時は、連携を結んでいる他事業所へお手伝いをお願いしている。送迎時の残りの職員のマンツーマン体制が難しいときなどは、見守り支援ができるようなプログラムにしている。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	70%	30%	バリアフリー化や玩具入れの分類分け表示や、危険のないように環境配置をおこなっている。	使用後の玩具の片づけを徹底する			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	45%	55%	体温調整が難しいお子さんもうらっしゃるので冷房暖房調整を心がけ、感染対策として抗菌抗ウイルス性の天然アロマを芳香している。飛沫対策としてアクリル板の衝立を使用している。	汚れを小まめに拭き、消毒を心がける。こども一人一人の特性にあわせた環境配慮を行う。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80%	20%	衝立を使用し空間を仕切ったり、必要時は別室にて個別対応を行っている。感染対策として隔離の人数が多いときは、館内の別室を借りている。				
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	70%	30%	その都度業務の中で、話し合い、見直しを行い、周知し改善につなげている。また申し送りノートを活用している。	一部の意見だけに偏らないように、無記名の意見箱「気づきボックス」を設け、改善案も再度見直しできるようにします。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	評価表をHPに添付していつでも見れるようになっています。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	日常的に気軽に会話できる環境になっている。毎日のミーティングや申し送りノートで、情報共有、対応策などを検討することをやっている。思いついたらすぐに伝えている。	一部の意見だけに偏らないように、無記名の意見箱「気づきボックス」を設け、改善案も再度見直しできるようにします。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	45%	55%	外部評価は行っておりません。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	90%	10%	その都度研修内容を回覧、希望者を募っている				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			定期的に見直し、更新、追加、修正を行っていく			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	90%	10%		保護者のニーズをもっと知るために、保護者会などを増やしていく。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	90%	10%	計画書の内容をふまえて、職員個人が、どう関わりたいかを書き出して全員がそれを閲覧できる環境である。職員それぞれの視点から子どもを理解している	すべての職員が、こどもひとりひとりに対しての療育や看護リハの目標や支援方法を、もっと具体的に把握できるよう会議を行っていく。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	90%	10%	個別ファイルにて保存、職員すべてが閲覧できるようになっている。当事業所は計画よりも、その日その子どもの状態をしっかりと把握し、いかに、日々のこどもの可能性に寄り添えるかを大切に支援をおこなっている。	具体的な目標や支援を統一できるよう会議を行っていく。意識して計画を確認するよう促していく。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	80%	20%	特性的に標準化されたアセスメントを用いるのは難しくインフォーマルアセスメントが多いが、日々の記録に利用児の変化や気になる点を記入して前後を評価できるようにしている。	各職種間、スタッフ間で共通認識をもてるように工夫していく			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	90%	10%		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	80%	20%	明確なプログラムはないが、ミーティングなどでその都度話し合いや声かけを行っている。	活動プログラムの担当者は、その都度、子どものどんな特性に合わせた活動なのか、意図や目標を、その都度共有する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	90%	10%	月ごとに四季折々、様々な活動計画提供を行っている。前年度までの活動内容を踏まえて、プログラムを工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	80%	20%	各子どもの特性に合わせるため個別支援活動がほとんどになりがちですが、ボール遊び音楽演奏などは、個別から集団へ自然な流れで活動方向が変わっていくことがあります。	集団活動を行えるよう工夫する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	80%	20%	朝のミーティングで送迎活動など一日の支援内容確認を行っている。	活動の様子をよりしっかりと記録に残す。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		100%	送迎の終わりが遅いため終了時の打ち合わせは難しいが、振り返りは必要時に残っているスタッフで行い、職場のLINEにて共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			具体的に記録をとりチームで話し合いを行い振り返りをおこなう。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100%			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		日々、自己選択を促したり、子どもの成長をしっかりと観察し、子どもの可能性を発見していく支援を行っています。	発見の中で場の変化をしっかりと記録していく。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	90%	10%	必要時は受診同行を行ったり、リハ関係者、学校関係者と連携して支援を行っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	80%	20%	学校からのプリントや、電話にて確認、調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	70%	30%	会義や、見学などにて総合理解ができるよう努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	80%	20%	必要時は、保護者に確認の上、提供させていただいています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	80%	20%	こども発達支援センターからの研修を受けさせていただいています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	55%	45%	今年度は、小学4年生の生徒さんたちが訪問してくださいました。また、毎年上越福祉交流プラザが主催のふれあいフェスタに参加することで交流を行っています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	70%	30%		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎者がその日の様子を直接伝えていきます。		

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	70%	30%	ご家族の皆様へ寄り添い、共に考え、共に学んでいく支援を目指しています。また公式LINEにて情報提供を行っています。定期的な保護者会を行っています。	保護者会の回数を増やせるよう努めます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	90%	10%		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	90%	10%		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	90%	10%	公式LINEなどで気軽にご相談いただいたり、御希望の方には面談を行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	100%			保護者会を行っているが回数を増やしたり職員全員が参加できるよう努めていきます。またきょうだい同士での交流も検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	45%	55%	地域住民を招待する福祉交流プラザでのイベントでは、事業所紹介を行っている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	90%	10%		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	90%	10%		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	90%	10%	安全計画はHPに記載しています。緊急時での対応のお知らせはプリントや公式LINEにて行っています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	55%	45%		ヒヤリハットの自覚は各自に任せているためその判断確認を全職員で行うようにする。起こった場合ミーティング等にて全体で把握し改善に勤める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		医療的ケア時に安全のための配慮として、やむを得ず拘束を一時的に行うことを会議で決定し、保護者の方から了解を得たうえで、個別支援計画書に明記している。またそのむねを、行政にも報告を行っています。		